

青少年の主張

青少年育成町民の集いで
発表された作文です。



『悩みを超えて』

坂祝中学校3年 交告 祈莉 さん

言葉を大切にしたい。どんなことでも前向きに考えていきたい。このように考えるようになったのは、私には、人間関係で悩んだり、自分自身のことや悩んだりした経験があるからです。

人間関係で悩んだのは、中学一年生の時です。中学生になり、決め事をすることが多くなりました。集団の約束などを決める時、何度も意見が合わないことがありました。人は感じ方や考え方などが人それぞれに違うので、意見が合わないということは当然起こることだと思いました。そして、同時に、それぞれが自分の意見を伝えられることのすばらしさも感じました。しかし、反面で、お互いの意見を拒否しすぎていたり、強い言い方をしていたりする姿がありました。

この経験から、私は、言葉は伝え方によって、相手が喜んだり悲しんだりすることがわかりました。だから、同じ言葉を言うにしても、どんな伝え方をしたらいいのかを考えることが大切だと思いました。また、言葉で人が傷つけてしまうこともあるから、言葉を発する前に、冷静になって、言ってもよいことかどうかを考えていかなければならないと思いました。言葉一つで、相手が傷ついてしまい、学校や職場に行きたくないと思ってしまう可能性もあります。だから、一つ一つの言葉を

選び、感情にまかせることなく、言葉が発することが大切だと思いました。

このように、言葉の選び方と伝え方を考えて話すことが、人間関係では大切だと思います。それは、話す時だけではなく、今の時代に多くの人が使っているSNSでも同じだと思っています。言葉で人の心を傷つけたら、それを治すことは難しいです。だから、「相手を思う」とは、「言葉を大切にすること」ということでもあると思います。

自分自身について悩んでいたのは、中学一年生の半ば頃です。少し強い口調で何かを言われると悲しくなったり、ささいなことで涙が出たりして休むこともありました。そして、体調不良になり、学校を休むこともありました。

そんな辛い時間を過ごす中で、私は、自分自身とじっくり向き合いました。すると、私が辛いと思っていることは、ほぼ、私の考えすぎだということに気づきました。その時の私は、物事を悪い方へ悪い方へと考え、自分が生み出した、その悪い考えに苦しめられていたのです。

この経験から、私は、強いメンタルを持つことが大切だと思いました。また、どんな過去も、今の自分のためにあると考えるようになりました。だから、もし、今が辛くても、その経験が未来につながっていると思えば、前向き

に考えることが大切だと思いました。このように、前向きに考えると、自分の気持ちがとても楽になりました。

この二つの経験から、言葉を発する前に相手がどんな気持ちになるのかを考えることの大切さ、考えこまず前向きな考え方をすることの大切さを学ぶことができました。

中学一年生の時は悩むことが多かったけれど、今は楽しく生活することができています。それは、これまでの経験があつたからです。今は、相手のことを考えて言葉を選んだり、伝え方を工夫したりすることができるようになってきました。そして、後ろ向きな考えから前向きな考えへと考え方を変え、少しずつ強い自分になることができています。悩みを乗り越えて、成長することができたと思います。

これからは、「相手のために言葉を大切にし、自分を大切にするために前向きに考える」という信念をもって、軸のある生き方をしていきたいです。そして、過去の自分と同じように悩んでいる人の話を聞いたりして、少しでも力になれるようにしていきたいです。

これから先も様々な悩みにぶつかると思います。そんな時には、自分と向き合い、悩みを越えていけるようにしたいです。



『父の仕事に学ぶ』

坂祝中学校3年 末原 ギレルメ さん

僕の父は、自動車整備、販売、保険、車検の点検など、車全般について仕事をしています。いつも笑顔で楽しそうに働いているので、そんな姿に僕は憧れています。

父は、いつも優しく、人との関わりを大切にしている、たくさんの質問に答えています。さらに、質問されていないことも、わかりにくいと思うことは先に説明し、お客さんが安心して車を買うことができるように工夫しています。

そんな父に、働いている思いを聞いたところ、父は、「車が好きだし、この仕事で生活して、家族にいい気持ちで過ごしてほしいから。」と言っていました。

ある時、父は約束していた人と会うことになっていたけど、その人が全然来ないことがありました。その時、父は夜の十二時ぐらいまで待ちました。そしたら、約束の人がやっと来て、そこから車についての話し合いをして、車を販売することができました。

普通なら、約束を破られて怒るはずなのに、なぜ父は夜中まで待ったのか、僕にはわかりませんでした。それで、父に理由を聞いてみると、父は、「遠くから来たから、待つてあげない

と相手がかわいそうだし、悲しむことになるからだよ。そうじゃないと車屋はやってこれなかったし、相手が悲しむことをするのはなくて、相手を安心させて、落ち着いて話し合いをすることが大切なんだ。それでこそ、一流の車屋になれるよ。」と言いました。

この理由を聞いて、僕は、さらに父への憧れが強くなりました。父は、働く思いを「車が好きだから。家族のためだから。」と言っていたけれど、「お客さんのため」ということを一番に考えて仕事をしているのだと思いました。

他にも、事故があつた時には、夜中の二時とか五時とかに電話がくることがあります。すると、父は、寝ているのに、すぐに仕事を受けて、現場にかかけます。そして、事故をした人を落ち着かせたり、その人が安心できるようにアドバイスをしたりしてあげたりしています。このようなことから、父は、いつも「人のため」に仕事をしているから、僕も見習いたいと思います。

そんな父に近づきたいので、僕も父の仕事を手伝ったことがあります。オイル交換やタイヤ交換の仕方、ドアやガラスの取り替え方を教えてもらいました。また、エンジンが故障した時の直し方なども教えてもらいました。見て

いると簡単そうだと思っていたことも、実際にやってみると大変でした。手や服が汚れるし、力もいるので疲れまじつた。また、間違えたら事故につながるかもしれない、命に関わる大切なことなので、正確にやらなければならないこともわかりました。でも、やってみたら、とても楽しくて、僕も自動車関係の仕事をしたと思います。

実は、父も祖父に憧れをもったことから、車の仕事をしているそうです。祖父は、僕が二歳の時に亡くなってしまいました。父は、今の父のように楽しく働いていたそうです。だから、父は、祖父を超えることを目標にしているそうです。

僕も、将来は、父のように、そして、父を超えるように仕事をしたしたいと思います。自分の力で生きていけるように、毎日汗を流して働きたいと思えます。そのために、今からしっかりと勉強をして、進学をして、車について専門的な知識を身につけたいと思います。そして、父の会社の跡を継ぎたいです。そして、父のように、人のために、みんなが喜んでくれることを考えて、仕事をしたしたいと思います。